

(資料)

社会的要請と尚恵学園の持つ課題  
(第3回在り方検討委員会の発言要旨)

## 1 利用者、保護者の高齢化等への対応

(入所系施設)

- ・通院、入院する入所系利用者は確実に増える。保護者の高齢化もあって、現行の支援体制下での付き添いの対応という課題が発生する。  
(尚恵学園の人件費率は既にかなり高いことと後述の人材確保の問題から、施設経営上、将来は対応が極めて困難になるのではないか。)
- ・利用者の65歳問題。障害福祉サービスから介護保険への移行も考えなければならなくなる。
- ・利用者さんの高齢化にあっては、食事に力を入れ、体力を養ってもらうことが課題。食べ易いソフト食の提供など工夫が必要になる。
- ・日振寮の階段が利用者さんにとってきつくなってきた。食堂が2階、作業場も2階に上がるのは大変になってきた。
- ・足腰が弱ってきているので、高い所での作業は不適切。
- ・家族会の出席が以前の半数に減少した。
- ・高齢の家族に対しては、わかりやすい支援制度、読みやすい資料を提供することなども考慮する必要がある。
- ・世代間の引き継ぎはあるのか。利用者さんとの関係性が疎遠にならないか懸念される。
- ・長期入居者同士の繋がりの深さから、新たな利用者がなじめない、入りにくい環境になる恐れがある。

(通所系施設)

- ・送迎の需要が上がる。
- ・ケアマネージャーとの連携、家族全体の支援がより必要になる。
- ・長年通い慣れた施設への愛着、こだわりと現実支援の限界の問題。
- ・グループホームでの高齢利用者に対する様々な工夫は宿命的。親亡き後に親族はどこまで関わってくれるのか不透明。成年後見制度は万全ではない。

### (入所・通所共通)

- ・親の高齢化＝家族会の高齢化。対応が課題になる。職員が橋渡しの役割を行わないと、利用者本人と家族の関係が疎遠になってしまう恐れがある。
- ・これからの若い職員にとって、高齢者介護の技術習得が必須になるだろう。

## 2 職員の育成、人材の確保

### (職員の育成)

- ・世代による価値観の違いに指導側が気付くことが大事。
- ・若い職員は、自己の権利が満たされてから自分の足元を見る(義務を果たす)傾向にある。
- ・若い職員は、ちょっとした出来事にもストレスを感じてしまう世代になったと感じる。ストレス研修も必要になってくる。
- ・若い職員は、アプローチの仕方によっては急速に能力を伸ばす可能性を持っている。若い職員が負担にならないような配慮、指導方法、雰囲気づくりをする。簡略できるところは簡略化する。仕事をさせるばかりではだめ、余裕をいかに持たせるか。
- ・若い職員には、パソコンを利用した指導も有効になってくる。
- ・職員の能力開発のためには、職員の特性を良く見極めて、長所を伸ばす視点を持って接することが大事。
- ・若い職員には、先輩職員を付けて教育するのが効果的であり、これがうまくいかないと、尚恵学園の支援技術のバトンをつなげなくなる。
- ・「メンター研修」のようなノウハウ研修をもっと行うべきである。
- ・福祉、介護に関する知識は持っていても、自分で考える力を持った若い職員が少なくなっており、その対応が課題である。
- ・いまは施設内での仕事が以前より格段に多く、若い職員にとってはいくらでもやる事があって職場になじむのが難しいと思われる。

### (人材の確保)

- ・現行どおり、常時ネットで職員募集をすることは有効。
- ・幼少の頃から、例えば子供向けイベントなどで、障がいのある方と関われるようにすることが大事。
- ・小さいときから障がい者を身近に感じてもらうためにはどうしたらよいか。

- ・世話人の確保のためには、どのようにして永く働ける雇用環境を整えられるか考えなければならない。
- ・働き易い職場環境づくりは重要な課題である。
- ・実習を大切にしたい。良い実習それも楽しい場となるような実習を行うことが大切ではないか。
- ・パート職員の確保は重要課題であり、処遇面の改善も考える必要があるのでは。

### 3 地域との連携

- ・施設と地域が助け合える関係の構築が大事。そのためにはどうしたらよいか。災害があったときに助け合える関係も必要。
- ・地域社会も高齢化しており、労働力の提供は大事であり、施設職員が何か手伝えれば喜ばれるはず。
- ・手伝いとはいえ利用者さんにとってはハードルが高いことも多いので、まずはスタッフから参加するのがよいのではないか。
- ・地域のお祭りへの参加もよい。
- ・こどもの遊び場として空地を提供しては。
- ・利用者さんがどのような人たちなのか知ってもらう工夫が必要。
- ・尚恵成人寮は、移転したばかりで地域とのつながりはまだ何もない。
- ・障害者を少しでも理解してもらえるようにするにはどのようにして地域とのつながりを持てばよいか課題。

### 4 日中活動支援の充実

- ・日中活動のための場所・スペースが無い。(厚生園)
- ・日中一時支援の利用者が急増しており、早急にその対応を考えなければならない。
- ・気分転換できるような支援を心がけることも必要。
- ・年齢に応じた、そのひとに合った活動を取り入れていくことも大事。
- ・日中活動の個別化に対応出来るだけのスタッフの力量、複雑化する利用者の行動へのスタッフの適応力がますます必要になってくる。
- ・送迎を円滑に行うことも課題。強度行動障害を持った利用者がコスモスだけでも5人いる。

- ・作業系以外の活動も入れるようにしていきたい。
- ・週1回、道具を使った趣味や習い事などの活動を入れる。
- ・若い元気な利用者の活動の場を見つけなければならない。

## 5 施設の老朽化等への対応

- ・旧尚恵成人寮跡地の活用にあたって、旧成人寮建物撤去をいまずぐ行えないことは困った。
- ・ほかの建物はすぐにでも撤去出来るが、第2作業棟は、10トンもの鉄骨で出来た躯体であり、廃棄するのはもったいないのではないか。
- ・旧成人寮建物の撤去まで3年かかるとして、その間、第2作業棟を何とかする（立替え又は全面改修）ことを考えてはどうか。
- ・パン工房、おもちゃ工房、和紙作業棟、洗濯室など厚生園の施設は古くなったが機能的には問題ない。（昔の尚恵学園は、古いものはふるいなりに、なければ無いなりに工夫を凝らしてやってきた。）

## 6 尚恵学園の存在をアピールする良好な支援環境の整備と自然環境の保全、創出

- ・施設群の中央を流れ、大雨が降ると度々あふれる神立都市下水路は、市の回答によれば当分改修されないことが判明した。一方、都市計画道路344号中貫神立線についての整備時期は不明。
- ・市街化調整区域は専用住宅や工場は建たないが、一方では規制をはずれて何が立地するか不明なところがある。
- ・以前はよく「お寺に出勤している。」と冷やかされたが、お寺の周辺だけあって虫の声や緑が豊富で良い環境だと思う。
- ・30年前は蛍が飛んでいたがいまはいなくなった。
- ・この前は「いな穂」敷地に沢蟹が現れた。
- ・カブトムシがいっぱい取れる。鳥のさえずりや虫の声、その一方で一步離れば市街地という環境はユニーク。